

事業報告

理事長あいさつ

令和2年から続いたコロナ禍により、困難な状況下での事業推進活動を余儀なくされてまいりましたが、令和5年度後半から状況も少しずつではありますが改善され、リアルでのイベント開催もできる運びとなりました。依然、しっかりとした感染防止対策を講じるなど予断を許さない状況ではありましたが、計画した事業をほぼ予定通りに遂行することができました。これは関係各位のご理解とご協力の賜物であり、改めて心より御礼を申し上げます。

令和5年度事業のトピックスを当財団の3本の中核領域毎に以下ご報告いたします。

1つめの「学術・科学技術の振興」では、第55回を迎えた「倉田奨励金」において、二つの研究部門あわせて279件もの多くのご応募をいただきました。厳正な選考によりそのうち43件を助成させていただきました。私共の研究助成が、受領された皆様の研究の一助となり更なる活躍に繋がることを願っています。

一方、一般の方に最先端の科学技術に触れられる場を提供する「日立財団科学技術セミナー」では、筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構 機構長の柳沢正史先生にご登壇いただき「睡眠の謎に挑む～基礎研究からウェルネスへ～」を講演いただきました。睡眠科学研究の世界的権威である柳沢先生の講演は大変好評で、当日は503名(会場52名、ウェビナー451名)の方にご聴講いただきました。この聴講者数は、当財団で開催しているセミナーでも最大級の規模となっています。

また、ASEANの社会課題解決に資する科学技術イノベーションの研究および研究開発の成果に対し表彰する「日立財団アジアイノベーションアワード」の実施に際しては、その一環としてラオス、カンボジア、インドネシアの対象大学・研究機関並びに過去のアワード受賞者を現地に訪問し、当財団とのネットワーク維持、事業認知度向上と応募者増を図っております。併せて当財団が過去取り組んでおりました日立スカラーシップ卒業生とも、交流を図ることができました。

新型コロナウィルス(COVID19)の感染拡大により創設された「日立感染症関連研究支援基金」では令和6年11月の研究プロジェクト終了を前に、第2回中間報告会を開催しその進捗を確認しています。

2つめの「人づくり」では、秋田県、大分県を含む5つの小学校において出張授業を行いました。これをもって平成28年度から8年間でのべ23の小学校、52クラス、1,674人の児童がプログラムを体験したことになります。理工系女子応援プロジェクトもトークセッションとワークショップを開催しました。次代を担う小中高生に対し「創造的で社会をデザインする力」を育む一助になりたいと思います。

3つめの「多文化共生社会の構築」では、新しい試みとして電子ジャーナル「日立財団グローバル ソサエティ レビュー」を12月に発刊しました。これにより、多文化共生に関連する学術分野の有識者が専門領域を超えて有機的に繋がり、学術分野における新たな発想や視点の醸成に貢献し、日本における多文化共生社会への理解と発展をめざしたいと思います。

コロナ禍を経て、人々の生活も元に戻ろうとしています。今後もサステナブルな社会の構築、日本の国民生活の向上、ひいては国際社会の発展の一助となるべく、弊財団の強みを活かした社会貢献事業を進めてまいります。

公益財団法人 日立財団

理事長 内藤 理

倉田奨励金（研究助成事業）

2024年3月4日（月）、京王プラザホテルにおいて、2023年度（第55回）倉田奨励金贈呈式を開催しました。今年度は279件の応募があり、厳正な審査により決定した43名の研究者に対して贈呈しました。

倉田奨励金は、日立製作所第2代社長の倉田主税が提唱し創設した研究助成金で、グローバルな社会課題解決力を担う次世代の研究者による自然科学・工学研究、および高度科学技術社会に通底する人文・社会科学研究を対象とし、助成するものです。

贈呈式では、選考委員長の花木啓祐氏から今年度の選考経過報告があり、研究テーマの紹介とともに理事長からひとりひとりに贈呈書をお渡ししました。続いて各部門・分野の代表者が登壇し、今後の抱負などをスピーチしました。贈呈式に続いて、研究期間を終えた受領者による研究報告会を開催し、代表者4名が研究成果を発表しました。

■ 2023年度（第55回）倉田奨励金 助成一覧、贈呈式・研究報告会

<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics108.html>



■ 研究報告会

発表1：エネルギー・環境分野／望月 泰英氏（東京工業大学）

地球上に豊富な元素で構成される
負熱膨張材料の機構解析と実験実証

発表2：都市・交通分野／高畠 知行氏（近畿大学）

道路閉塞が地震・津波の人的被害に及ぼす影響の解明

発表3：健康・医療分野／北條 宏徳氏（東京大学）

ゲノム編集法と一細胞 RNA-seq 解析を融合した
疾患関連 SNP スクリーニング法の開発

発表4：人文・社会科学研究部門／奥乃 真弓氏（東洋大学）

信頼される AI (trusted AI) に関する
信認関係の継続的な構築における法的課題の研究



日立財団科学技術セミナー（啓発事業）

2023年11月12日（日）、第19回 日立財団科学技術セミナーを開催しました。

今回のテーマは「睡眠の謎に挑む」。睡眠科学研究の世界的権威 柳沢正史氏（筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構（WPI-IIS）機構長／教授）を講師にむかえ、眠気の正体に纏わる基礎研究から最新研究に基づいた究極の睡眠法まで、わかりやすく解説いただきました。

■ 実績：参加者 503名

■ テーマ：「睡眠の謎に挑む～基礎研究から睡眠ウェルネスへ」

■ 開催日時：2023年11月12日（日）13:30～15:00

■ 講師：柳沢 正史氏

筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構 機構長／教授

■ 開催報告：<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics105.html>



会場の様子（九段会館テラス）



講演中の柳沢氏

日立財団アジアイノベーションアワード（表彰事業）

日立財団アジアイノベーションアワードは、ASEANの社会課題解決と持続可能な社会実現に資する科学技術イノベーションを促進するために、2020年度より開始した表彰事業です。

本アワードでは、持続可能な開発目標（SDGs）への貢献を目的として、あるべき社会像を描き、科学技術の社会実装を計画に入れた優れた研究および研究開発において、画期的な成果をあげ、明らかに公益に供したと思われる個人またはグループを表彰します。

対象大学から推薦による応募を受け付け、厳正なる審査の結果、15名の受賞者が選定されました。

■ 2023年度（第4回）日立財団アジアイノベーションアワード受賞者
<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics104.html>



最優秀賞



温室効果ガス排出ネットゼロを支える電気自動車用リチウムイオン電池材料の性能最適化

Dr. Anne Zulfia Syahril インドネシア大学



優秀賞



再生可能エネルギー
技術向け
エネルギー管理
ソリューション

Dr. Erees Queen
Barrido Macabebe
アテネオ・デ・マニラ大学



有機廃棄物を活用した
環境に優しい
バイオマスブリケット
(EFBB)の利用

Dr. Kinnaeth
Vongchanh
カンボジア工科大学



エタノール生産に
おける高度な
非加熱処理技術の
活用

Dr. Son Ky Chu
ハノイ工科大学



ITS ジャムウ：
人類の発展に向けた
先住民の
科学的知識の転換

Dr. Sri Fatmawati
スラバヤ工科大学



ゴマ生産における
持続可能なハトメシスト
センチュウ病害対策の
開発

Dr. Yu Yu Min
イェン農業大学



奨励賞

持続可能な未来のためのLED照明技術

Dr. Anh Doan Quoc Nguyen トンドックタン大学



家畜と環境に優しい代替消毒剤（SDA）の開発

Dr. Nurzainah Ginting 北スマトラ大学



オープンソースの水力技術：
フィリピンの小水力発電技術の無償公開

Mr. Isidro Antonio III Valdivia Marfori デ・ラ・サール大学



パワーエレクトロニクス - 太陽光発電システムのキーテクノロジー

Dr. Phuong Hoang Vu ハノイ工科大学



ElectriPHI プロジェクト：
フィリピンの未電化地域における電化計画

Dr. Joey Duran Ocon フィリピン大学ティリマン校



INOSEC19：
腋窩（わきの下）汗の臭いを抑えたCOVID-19スクリーニング・ツール

Dr. Riyanarto Sarno スラバヤ工科大学



ガス化プロセスで生じる
低品位燃料の燃焼を促進する効率的手法の開発

Dr. Lemthong Chanphavong ラオス国立大学



カンボジアにおける革新的な
マイクログリッドとスマートグリッドの開発

Dr. Vannak Vai カンボジア工科大学



Greenes：
環境発電ソリューションによる未来の緑化

Dr. Minh Thuy Le ハノイ工科大学



日立感染症関連研究支援基金（研究助成事業）

2024年3月13日（水）、日立感染症関連研究支援基金第2回中間報告会を開催しました。

日立感染症関連研究支援基金は、COVID-19 禍への対処において顕在化したさまざまな問題をエビデンスに基づき学術的に調査、分析、考察し、その知見を国際的に共有することをめざす研究に対して助成するもので、株式会社日立製作所ならびに同社役員や従業員、グループ会社役員からの寄付によって新設されました。助成対象研究プロジェクト5件を採択後、2021年12月から3年間の予定で研究活動が進められています。

第2回中間報告会では、各研究プロジェクトの代表者が、2023年4月から2024年3月の研究活動状況および今後の活動予定を報告しました。

■ 第2回中間報告会開催報告 <https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics107.html>



日立みらいイノベータープログラム（出張授業）

2023年度も教育委員会・小学校と綿密に連携を図り、5校に対し、本プログラムを実施しました。
今年度は初の試みとして、各学校の講師としてご参加いただいた、日立グループ7社、26名の方を対象に2024年1月に講師交流会を、また2024年2月に3校の先生方と地域を超えた教員ミーティングを開催しました。

■実績：5県5校10クラス 小学校受講者264名／講師26名

■実施校と講師派遣元

実施校	講師派遣元
埼玉県 戸田市立笹目小学校	日立製作所、日立ソリューションズ・クリエイト、日立医療情報ソリューションズ、日立社会情報サービス
大分県 豊後高田市立桂陽小学校	日立製作所 九州支社、日立アカデミー
秋田県 秋田市立泉小学校	日立ソリューションズ・テクノロジー
群馬県 玉村町立中央小学校	日立製作所、日立社会情報サービス、日立アカデミー、日立産機システム
茨城県 日立市立大みか小学校	日立製作所

■開催期間：2023年6月～2024年2月



理工系女子応援プロジェクト（啓発事業）

2023年8月1日（火）、日本工業倶楽部（東京都/千代田区）3階大ホールにおいて、「私がいかが『わたしのあした』～好きなことでつくるHAPPYな未来♪～」と題してトークセッション&ワークショップを開催し、女子中高生18名、付き添いの保護者12名および、オンライン参加の皆さまに参加いただきました。

■パイオニアトークVol.9 私がいかが『わたしのあした』～好きなことでつくるHAPPYな未来♪～

■ゲスト：宇宙キャスター®/J-SPARCナビゲーター/一般社団法人そらび代表理事/日本宇宙少年団 東京日本橋分団長 榎本 麗美氏

■インタビュー：ジャーナリスト/元NHKアナウンサー 堀 潤氏

■グラフィックファシリテーション：株式会社しごと総合研究所 代表取締役 /

一般社団法人グラフィックファシリテーション協会 代表理事 山田 夏子氏

■イベントレポート： https://www.hitachi-zaidan.org/my-tomorrow/dialog/vol9/hitachi_rikoujyoshi_report.pdf



多文化共生社会の構築

日立財団グローバル ソサエティ レビュー（啓発事業）

多文化共生社会の構築事業として、新たに電子ジャーナル「日立財団グローバル ソサエティ レビュー」（年2回発行／6月、12月予定）を創刊いたしました。

Vol.1 「多文化共生社会の構築とは」



巻頭言 ●公益財団法人 日立財団 内藤理事長 挨拶

特別寄稿 ●多文化共生社会の構築における課題とは
●「多文化共生社会の構築」を目指す前に必要なこと
●沖縄のアメラジアンから多文化共生を考える

座談会 ●多文化共生社会とは

連載 ●統計から読み解く移民社会①

編集後記 <https://www.hitachi-zaidan.org/global-society-review>

